

2026
11.18 (水) 12:10
12:50

12:10-12:15

◆発表者紹介

12:15-12:40

◆プレゼン

12:40-12:50

◆質疑応答

オンライン
(Zoom)

登録はこちら▶▶

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_A1jt5Dt3Qeqs_s7PU5LN8Q

【技術支援】九州大学 Q-AOS

漢方医学の視点による
不定愁訴の治療

Key Words

漢方

不定愁訴

東洋医学

宮田 潤子 講師

九州大学 医学研究院 保健学部門

2001 年熊本大学医学部卒業後、九州大学小児外科に入局。九州大学病院、大分県立病院、九州医療センターで研修し、2011 年に小腸移植の虚血再灌流障害研究で博士（医学）を取得。飯塚病院および九州大学病院で田原英一先生、貝沼茂三郎先生に師事し漢方を研鑽、2016 年に漢方専門医を取得した。現在は九州大学病院小児漢方外来にて慢性疾患、難病、発達障害などに伴う諸症状の漢方診療を行うほか、漢方教育にも従事。小児外科では総排泄腔異常疾患の診療・研究に取り組み、患者支援活動や支援体制の構築を推進している。日本東洋医学会漢方指導医・専門医。

不定愁訴とは検査をしても異常が見つからない様々な症状のことです。患者さんにとっても、医師にとっても、不定愁訴とは非常に嫌なものです。不定愁訴に長年悩んでおられる患者さんからは、「どうして原因がわからないのですか？」「どうして治らないのですか？」という声を聞きます。西洋医学では原因を明らかにしなくては治療ができません。ところが漢方治療というのは、西洋医学的な原因が不明であっても「証」という患者さんが呈している症候から病態を考え、根治的治療も可能であるという点は東洋医学の魅力であり、西洋医学での行き詰りを打破できることもあります。本日は原因不明の症状の漢方医学的視点による捉え方とその治療についてお話しします。